

サイディングプレカット協会設立へ

連携して普及促進図る

事務局は富国物産

外壁材の現場施工が抱える様々な課題を解決する手段としてサイディングプレカット(SDPC)が注目を集めるなか、その普及促進を目指す「サイディングプレカット協会」が近く設立される。正会員のプレカット工場19社をはじめ、賛助会員の外壁材及び機械メーカー等を合わせ約40社が参画する見通しだ。事務局は富国物産(長野市、林隆夫社長)外装部が担当する。

同協会の設立は、Sと情報発信、技術開発、能者の育成及び研修DPC事業の普及促進と最新技術の共有、技会、資格制度の確立な

どが目的だ。個々の企業だけでは解決できない課題に、協会で取り組んでいく。

設立発起は、光和建材(福島県郡山市、笠原秀幸社長)北海道・東北支部長、正会員工場数4)、トーヨーマ

テリア(東京都、工藤恭輔会長)関東支部長、同5)、ナカザワ建販(大阪府岸和田市、四本敦緒社長)近畿・中京支部長、同4)、扶桑建材工業(香川県高松市、辻井憲治社長)中国・四国支部長、同2)、福栄(長崎県島原市、福岡久社長)九州支部長、同4)の5社。8月2日に設立総会を開催予定。

富国物産は、SDP

Cにおける3次元採寸システム「FBシステム・デジタル」を全国展開しており、正会員のプレカット工場はそのユーザーだ。「サイディングは職人が現場で施工して初めて完成品になる。品質の平準化等、SDPCの良さを住宅会社やエンドユーザーにアピールし、普及促進を図っていきたい」(金井敏寛富国物産外装部長)。